

木を知り、木を使う、日本の山の木で家をつくる

実践的に学ぶ木造住宅の基礎講座

木の家に暮らすことは、心身ともに健やかで快適な生活につながります。また、日本の木で家をつくることで日本の山は健全に循環し、CO₂の吸収・定着や治水、生態系の維持、資源の循環といった環境面にも大きな貢献をします。

一方で、木造住宅は地震や火災に弱いといった疑問を感じている人も少なくないでしょう。今の時代、住宅の作り手も住まい手も、木を生かした家づくりは特殊で難しいものと考えているのかも知れません。ほんの4,50年前まで、近くの山の木を使った家づくりはあたり前のことでした。山から町へと木が運ばれ加工される段階で、木を扱う人たちは昔から伝えられてきた知恵を発揮してきました。この知恵は、現代でも失われたわけではありません。

さらに、今の時代の科学技術は、木の長所も短所も科学的に分析し、経験的な知恵に科学的な裏づけを与えています。木には生物的、力学的な性質があります。この性質を理解し理に適った使い方をすれば、木の家づくりは普通に行うことができるのです。しかし昨年の法改正によって、木造住宅の多様性は制限されようとしています。これからの木造住宅がどうなるのか、私たちはしっかりと目を見開いていないといけません。

本講座は、林業や製材、構造、設計、施工の第一線で活躍する専門家が講師を務め、実務にもとづいて、木の家づくりのポイントをわかりやすく講義します。

時代や社会との関わりを考えながら、木造住宅を基礎から一緒に学んでいきましょう。

2008 近山スクール東京・概要

◆日時 10月4日～3月7日(全6回・土曜日)13:00～17:00

◆会場 芝浦工業大学豊洲キャンパス・教室棟 404号室

■募集要項■

受講対象：木造住宅の設計または施工に携わりたい人あるいは学生、木造住宅に関心のある方

受講費：一般 35,000円 学生 20,000円 定員：60人

申込方法：ホームページの申し込みフォームからお申込ください。その他のご質問などは直接事務局までご連絡ください。

払込方法：郵便振替口座でお願いします。お申し込みされた方には、郵便振替用紙(振込料加入者負担)をお送りいたします。

問合せ先：近山スクール東京事務局 ☎03-5971-2309 fax03-5971-2329

mail:tokyo.school@chikayama.com <http://tokyo.school.chikayama.com>

■講義日程・内容

10月4日(土)	日本の山の木を生かして使うには	
	第1講 日本の山から発信する「国産材の使い方」	和田善行 TSウッドハウス協同組合理事
	第2講 大工の立場で考える木材の乾燥と工法	宮内寿和 宮内建築
11月8日(土)	長持ちする木造住宅と、その循環を考える	
	第1講 木造住宅の廃材はどこへ行く?	桑原一男 クワバラパンぷキン代表取締役
	第2講 循環を考えた長寿命住宅のあり方・つくり方	蟹沢宏剛 芝浦工業大学工学部建築科准教授
12月6日(土)	人体が感じる快適さって何だろう	
	第1講・第2講通し 一講座と実験演習－空気温度・湿度・放射の変化と快適な温熱環境について	宿谷昌則 武蔵工業大学環境情報学部教授
1月17日(土)	これだけは踏まえておきたい木構造	
	第1講・第2講通し 実験と解析で説く、実務に使える基礎知識	山辺豊彦 山辺構造設計事務所代表取締役
2月7日(土)	木造住宅の耐火性—木はどうすれば露わして使えるのか	
	第1講 木造住宅は本当に火災に弱いのか	安井昇 早稲田大学理工学総合センター研究員
	第2講 木の家の防火性能を上げるには	山崎健治 ころも木造建築研究所
3月7日(土)	これからの木造住宅をどうつくるのか	
	第1講 職人チームと取り組む直営方式	高橋昌巳 シティ環境建築設計代表取締役
	第2講 手仕事で真価を発揮する地域工務店	持井貞城・村上圭吾 持井工務店代表取締役・同社員

■フィールドツアーin 原村 10月25日(土) カラムツ林で森林作業の体験 参加費別途(新宿からのバス代・弁当代含)

